

XenosagaI・II - 第四話 宿縁 - Beziehung - 上

マッシューズ：全滅かー派手にやりやがったな。こいつは何も残ってねえんじゃねーか。

おい、トニー！ 連邦船が押っ取り刀で到着するまでどんくらいある？

トニー：えーと、最後の救難信号が発信されたのが30分前だから、

どんなに早くてもあと3時間はかかるんじゃないの。

近くに艦影なかったしーなあ、ハマー。

ハマー：そうっすね、半径5000光年の範囲にいた船は自分らだけっすよ。

マッシューズ：おっし、そんだけありゃあ十分だ！ 売れそうなもん、残らずかつさらってくぜ。

ハマー：ねえ、船長。いくらガイナンの旦那への借金返済期日が迫ってるからって、

こいつはちょっとマズイんじゃないっすかあ？

連警に見つかったら十年じゃすまないっすよ。

マッシューズ：そりゃ見つかったらーの話だろうに。だいたいだな、こんな辺境をわざわざ連警が巡回してまわるもんかよ。

ハマー：だからって、なにも死に装束かっぱぐような真似しなくてもー

なんか自分ら、宇宙のクマネコかジャッカルーでなけりゃハイエナって感じしません？

マッシューズ：馬っ鹿野郎！ 何だその喩えは、全部絶滅した動物じゃねえか！ 縁起でもねえ！！

宇宙環境に優しい再生[リサイクル]屋と呼べ！ 再生屋と！

トニー：アルバイトはこないだ、ガイナンの旦那にダメくらったばかりっしょ。

ファウンデーションのイメージが落ちるってーいいのかなあ。

ーっと、三時の方向に大破した艦、発見！ ありゃあ、ガニメデ級だな。

マッシューズ：おお、でかしたぞトニー！ U.M.N.の非常帯を傍受してた甲斐があったってもんだぜ！

早く着けろ、早く！

ハマー：やっぱ、禿鷹かなあー――

マッシューズ：あんだって？

ハマー：スペクトルばっちり！ ジオクリスタルの光っすよ。

マッシューズ：よっしゃ、幸先いいぜ！ まずはそいつをゲットだ。

ハマー：はい、そのままっすぐ進んでーおっ、見えてきたっすよ。

トニー：あれか——　——ん？

うああああ！　おい、死体じゃねーか！　なにがジオクリスタルだ！

マッシュズ：——死体がどうした！　あ、あたりめえじゃねえか。戦場跡だぞ、別に珍しかねえだろ！

ハマー：ありゃあ、引っかかっちゃったっす。ほら、左のウィンドウんとこ——

トニー：ああ、そんなつもりじゃなかったのに——

マッシュズ：モーターの推進剤がもったいねえ！　かまわねえからホレーー弾いちまえ。

トニー：じょ、冗談っしょ！

ご先祖さまは敬えて、死んだ婆ちゃんから散々言われてたんだからさ。

崇られるの、ゴメンだぜ！　船長やれよ！

マッシュズ：馬っ鹿野郎！　てめえの爺さんはこんなところに漂ってんのか！

んなわけねえだろ！　四の五の言わずにとっとと進めって。

トニー：またかよ！　船長、いっつもそうじゃねーか。

イヤな役、全部オレたちに押し付けてさあ。

ハマー：あ、でもこの死体——女の子みたいっすよ。けっこう美人かも、へへへ。

マッシュズ：へへへじゃねえ、この変態！　死体に美人もへったくれもねえだろ。

トニー：そゆこと、向こうむいちゃってるしね。ご対面できないの、残念だけど——

うわあああああつ！！

宿 - Beziehung - 縁

KOS-MOS『通信回線を開いてください。話したいことがあります——2020です。』

ハマー：うあああ、し、死体が喋ったっす！

マッシュズ：ば、馬っ鹿野郎、よく見ろ！　こいつは死体なんかじゃねえ。レアリエンじゃねえのか。

トニー：なんまんだぶ、なんまんだぶ——

ハマー：で、でも、真空中で活動できるレアリエンなんて、聞いたことないっすよ！

マッシュズ：なら、キャビンのお客さんみてえなサイボーグかなんかだろ。いいから回線開けや！

ハマー：は、はい、どぞっす！

マッシューズ：あー、俺は不定期貨客船エルザの船長、マッシューズだ。先ほど、貴殿らの救難信号を受信した。
偶然、本船の進路近傍であったが故、すわ一大事と救助に駆けつけた次第だがー

ハマー：救助？

トニー：救助？

マッシューズ：なにか協力できることがあったら、言ってくれ。

ハマー：そんな、救助ってー” バイト” の方はどうするっすか。

マッシューズ：馬っ鹿野郎、救助してるふりして、その隙に戴いちゃうんだよ。

この惨状だ、どうせ誰も生き残っちゃいねえって。

KOS-MOS『ー単刀直入に言います。今から、この船の運行は、私の指示に従っていただきます。』

マッシューズ：はあ？ ネーチャン、寝言だったらベッドの上で言ってくれ。

こちとら、” バイト” がまだなんだ。その後も、ビジネスに戻るんでね。ヒマがねえんだよ、ヒマが。

KOS-MOS『こちら時間もありません。この付近には、まだグノーシスが残留していると思われます。』

マッシューズ：グ、グノーシスがー！？

KOS-MOS『指示を受け入れていただけない場合、ブリッジを破壊します。』

マッシューズ：へっ、できるもんならやってみろ。

このエルザの外壁は、直径6ミリのデブリの直撃にだって耐えられるようにできてんだ！

ネーチャンの柔なパンチくらいじゃ、ヒビ一つー

ハマー：うわあああああっ！

KOS-MOS『あと一撃で、この窓は割れます。

見たところ、宇宙服を着ていないようですが、これは善意の提案です。

このまま、あなたたちを宇宙に放り出してから、船を占拠することもできるのですよ。』

トニー：ひえええっ！

ハマー：神様あっ！

マッシューズ：だあーっ！ わーった、行く、行きますって！ そう焦るない。

KOS-MOS『最初から素直にそうしていただければ、1分45秒も無駄にせずにすみません。これからそちらに乗り込みます。

カーゴベイを開けてください。』

マッシューズ：りょ、了解した。

KOS-MOS『ーそれでは。』

マッシューズ：（ーーーー

――――

――――

――――降りたか？)

トニー：(――多分)

マシューズ：(よし、んじゃ合図したらだなあ――)

KOS-MOS『それと――――』

マシューズ：な、なんでい。

KOS-MOS『船を急加速させて、私を振り落とそうなどとは考えないことです。

エンジンごと、船を破壊しますよ。』

マシューズ：むう――――

トニー：あらら、完全に見破られてるわ。

マシューズ：るせい。

ハマー：ん、これ――――

あのお、船長。汎用帯に通信がはいってるんすけど。

マシューズ：通信？ 生存者か――

ハマー：さあ――いまスピーカーに出すっす。

アレン『――みません、――れかいませんかあっ！』

アレン：――すみませーん、誰かこれ聞いてませんかあ！ 聞いてたら応えてくださーい！

誰かあ、はやく助けてえ～～～っ！

マシューズ：――なんだこりゃあ？

KOS-MOS『――シオン、聞こえていますか？』

シオン：KOS-MOS！ KOS-MOSなのね？ あなたいま、どこにいるの！

KOS-MOS『近くを通りかかった民間船と接触するところです。

しばらく、その状態でいてください。じきに連邦の救助艇が来るはずですよ。』

シオン：しばらく――って、KOS-MOS、あなたはどうするの！？

KOS-MOS『筐体を換装する必要がありますので、二局へ向かいます。本社からの指示です。』

アレン：向かうって――ちょっ、ちょっと待ってくれよ！ 僕たちはどうなるんだ！？

KOS-MOS『残念ながら、あなた方に関する指示はありませんでした。現状が優先されます。』

アレン：じゃあなに！？ 僕たちはここでじっと助けを待ってろってこと！？

KOS-MOS『そういうことになります。』

アレン：待ってくれよ！

こんな辺境の暗礁宙域に、連邦の救助艇が来るかどうかの保証なんてないだろ！

もし来なかったら、僕たち、このポッドの中で餓死しちゃうじゃないか！

おい、そんなのめんどだよ。

KOS-MOS『その前に、酸素がなくなって窒息死すると思われます。約46時間後になります。』

アレン：なあんだ――って、ち、窒息う！？

KOS-MOS『そうです。もっとも、15時間以内に救助艇が来る確率は96%ですから、おそらく助かるでしょう。

――断言はできませんが。』

アレン：そ、そんな――――

シオン：ダメよ、あなたを一人で行動させるわけにはいかないわ。そっちに収容しなさい。

KOS-MOS『時間がありません、通信を切ります。お元気で、シオン、アレン。』

シオン：待ちなさい、KOS-MOS！ 収容してくれなければ、ポッドのハッチを開けるわよっ！

アレン：ちょっと主任！ それ、ハッチの開閉レバーですよ！

シオン：アレンくんは黙ってて！

――いい、KOS-MOS！ このレバーを回転させたらどうなるか、解るよね。

あなた困るんじゃないの？ 私たちを生還させなくてはならないんでしょ、違うっ！？

KOS-MOS『つきあっていられません、私は、私の任務を実行するだけです。』

シオン：KOS-MOS、あなた全然信じてないでしょ！ 本気なのよ、私は！

アレン：うわああ、ほんとに回してるっ！ 空気が漏れてるう～～っ！！

？？？：――助けてあげたらどうかな。彼女、本気みたいだよ。

マッシュズ：よお、ケイオス。お目覚めかい。

ケイオス：これだけ騒がしければ、誰だってね。

KOS-MOS: (ーブリッジの生体反応が一人分、瞬間的に増加しました。観測エラーとの断定不能ー)

ケイオス: ね、いいよね。

KOS-MOS『――――』

ケイオス: 彼女に異存はなさそうだから、後は船長の判断なんだけどーどうかな、船長。

僕からも願いますよ。

マッシュズ: ああ、お前がそう言うんなら、こっちは構わねえぜ。

ケイオス: じゃあ、決まりだ。ライフポッドも一緒にカーゴベイに連れてきてくれるかい、KOS-MOS。

KOS-MOS『了解しました。』

(――――)

なぜ、私の固有名称を知っていたのか、理由は不明――)

マッシュズ: ーってわけだ、カーゴベイハッチ開放しろや、ハマー。

ハマー: 了解っす!

???: ー船長、申しわけないが、いままでの通信内容は傍受させてもらった。

マッシュズ: ん、ああ、お客さんですか。ーなら話は早い。

申しわけないんですが、そういうわけで目的地への到着、遅れそうです。

???: 正直言って、こちらは困る。

マッシュズ: そりゃそうでしょうが、俺だって好きで困らせてるわけじゃねえですし。

???: わかっている。こちらで問題は解決するつもりだ。事前に伝えておく。

マッシュズ: おいおい、それはー

???: ライフポッドの民間人にはダメージを与えないよう、留意する。心配する必要はない。

マッシュズ: いや、そうじゃなくてー

ハマー: 船長、ライフポッド、カーゴベイに進入したっす。ハッチ、閉めるっすよ。

???: ーこれより戦闘を開始する。通信封鎖を了解されたし。

マッシュズ: 俺が言いたいのはー

頼むから、船には傷をつけないでくれよぉっ!

ハマー: やっぱ、ハイエナにはバチが当たるんすねえ。

マッシュズ: ハイエナじゃねえっ!

ー

アンドリュー：（なんだここは――民間船にでも収容されたということか？）

ケイオス『カーゴベイの与圧完了、もう出てきて大丈夫ですよ。』

アレン：ふう～、これで一安心ですよ。

シオン：あの人は――？

？？？：――この船の進路を自由にさせるわけにはいかん。悪いが、排除させてもらおう。

KOS-MOS：敵性勢力確認。これより殲滅します。

？？？：相手にとって不足はない。

シオン：KOS-MOS、やめなさい！

？？？：グノーシスだと！

シオン：D.S.S.S. で捉えたの？

KOS-MOS：現在、本船の各所に残留グノーシスが侵入を開始しています。

本船の安全確保を望むのであれば、排除に協力していただくことを期待します。

シオン：！ KOS-MOS、ヒルベルトエー――

ヒルベルトエフェクト――いったい誰が！？

？？？：モモ、隠れていると言ったはずだ！

モモ：ジギー、グノーシスが出たのなら、モモだって――！

KOS-MOS：来ます！

【 戦闘 VS ゴーレム、マンティコア×2 】

シオン：モモちゃん――って言ったわよね、あなた、ヒルベルトが――？

モモ：はい、モモは百式観測器のプロトタイプですから、

ヒルベルトエフェクトが実装されています。

シオン：百式の――

KOS-MOS：お話の途中ですが、シオン――

この船の安全を確保するため、グノーシスを排除する必要性は緊急だと思います。

ジギー：いかん！ ブリッジが――

シオン：私も行きます、急ぎましょう！

ブリッジ

ハマー： ひ、ひええええっ！

マシューズ： だ、旦那！ はやくなんとかしてくれ！

【 戦闘 VS ゴーレム 】

マシューズ： こ、これでなんとか、片づいたのかー？

ハマー： うわわわわわっ！

マシューズ： なんだぁ！ るせえぞ、ハマー！

ハマー： グ、グ、グ、グノ、グノーー

シオン： グノーシス！

アレン： まだ残ってる奴が！

トニー： は、入ってきやがる！

KOS-MOS： どいてください、シオン。

シオン： KOS-MOS、こんなところであなたの火器を使ったらー！

アンドリュー： ぐおっ！

シオン： 中佐！

アンドリュー： ぐ、うううー

マシューズ： ケイオスッ！

ケイオス： 分かってる。

シオン： ケ、ケイオスくん？

アレン： グ、グノーシスがー

シオン： 消えたー？

アレン： な、なにやったんだ、いまー

マシューズ： ふうーいまの一匹で終わりか？

KOS-MOS： 残存グノーシスの反応、ありません。

マシューズ： そ、そうかーだが、はやく立ち去るに越したこたぁ、ねえだろな。

シオン： い、いまのどうやったんです？ グノーシスを消し去ることができる人間なんてー

ケイオス： 絵を描くのが上手い人もいれば、走るのが得意な人もいる。

ハマーのナビゲーターとしての腕は超一流だし、ネットの知識も豊富。

トニーの操船技術は宇宙一で、彼の右に出る者はいない。――自称だけどね。

船長は――船長は借金の多さでは、誰にも引けを取らない。

マシューズ：ああ、そうだ――って、おい、なんだそりゃあ。

ケイオス：誰にでもなにか一つ、自身を定義付けできる”もの”があるはずだよ。

シオンって言ったよね――君はなにによって、定義づけられるのかな。

シオン：えっ、私、私は――

ケイオス：僕の場合もそう、ただそれだけのことさ。

トニー：そう、ただそんだけ。な！

シオン：ああ、そうか、そうですよね。そう言われてみると、なんとなく理解できます。

ハマー：そういうことっす。

アレン：そういうことって――――ええっ、だって、そんな主任！ 納得しちゃっていいんですか！

グノーシスですよ、グノーシス！

ケイオス：――まあ、みんな納得してくれてるみたいですし。ねえ、船長――

マシューズ：ったくだ。

んなことよりも、お前さんがずっとブリッジにいてくれりゃあ、なんの問題もなかったんだがなあ。

トニー：ジェネレーター護れってケイオスに頼んだの、船長でしょうが。

シオン：ほんとにすごい――

ケイオス：――――――

マシューズ：まあ、船が助かったのは、あんたらの協力のおかげでもある。

礼は言っとくよ。俺は不定期貨客船エルザの船長、マシューズだ。

シオン：ヴェクター・インダストリー本社第一開発局のシオン・ウヅキです。こちらは同局のアレン・リッジリー。

すみませんでした、融通のきかない弊社のKOS-MOSのせいで、ご迷惑をおかけして――

ほら、アレンくんもお礼言って！

アレン：あ、はい。いやあ、ホント助かりました。

融通のきかない上司のせいで、危うく宇宙の藻屑と消えはてるところでし――いてっ。

シオン：（余計なこと言わないの！）

アレン：（は、はい――）

マシューズ：礼だったら、ケイオスに言ってくんな。

俺らは、あんたらを置き去りにしていくつもりだったんだからよ。

シオン：そうだったんですか――

ありがとう、ケイオスくん。

ケイオス: いいですよ、困っているときはお互いさまですから。

マッシュズ: ま、こいつがいてくれるお陰で俺たちも随分と助かってるからな。こいつの頼みは断れないんだよ。
んで、こちらが本来の乗客であるジギーの旦那と、モモ嬢ちゃんだ。

モモ: モモの他にも、ヒルベルトエフェクトが展開できる KOS-MOS さんがいて、頼もしかったです！

ジギー: 先ほどはすまなかったな。君たちの目的地も第二ミルチアだとわかっていれば――

シオン: いえ、強引に収容してもらった、こちらに非がありますから。そもそも――

ちょっと KOS-MOS、あなた一体どういうつもり！

私たちを置き去りにした挙句、独りで第二ミルチアに行くだなんて！

――搭載された OS、ちゃんと機能してないんじゃないの？

KOS-MOS: ーそうかもしれませんね。

シオン: ところで、本社の指示ってなに？

KOS-MOS: マッシュズ船長、格納庫層のフィッティングルームをお借りしたいのですが。

シオン: ちょっと KOS-MOS――

マッシュズ: ああ、使ってかまわんが、どうするんだ？

シオン: KOS-MOS ってば――

KOS-MOS: 試験用コンデンサのまま戦闘を行ったので、エネルギーが尽きかかっています。

リロードのため、コ・ジェネレーターからバイパスをいただきます。

シオン: もう、人の質問に答えなさいよ、KOS-MOS！

マッシュズ: 料金は請求していいんだな？

KOS-MOS: はい。

シオン: KOS-MO――

KOS-MOS: シオン。

シオン: は、はい？

KOS-MOS: センサーに不具合があるようです。目的地に到着するまでの間に、調整をしておいてください。

シオン: な、なんで私が――

KOS-MOS: これはあなたの仕事でしょう。お願いします、シオン。

アレン: 行っちゃったよ――

シオン: ー本当にすみません、あの子ったら、ものすごく融通がきかないから。

ーご迷惑をおかけします。

ケイオス：僕は楽しいですよ。乗員[クルー]が増えて、この船も賑やかになったじゃない。

トニー：そうそ、モモちゃんに乗ってきてくれるまで万年女日照りだったからねえ。

いやあ、この船も一気に華やかになったなあ。

どう、目的地に着いたら、ホテルのスイートでワイングラスを傾けあうってのは。

シオン：え、ええーそうです、ね。

アレン：ああーっ！

マッシュズ：まったく、いい加減にしとけよ、トニー。しかしよ、華やかだったって、こっちの姉ちゃんとはともかくー

あの KOS-MOS ってのは、女どころか、人間ですらないだろうが。

ケイオス：ーそうかな、僕にはヒトと変わらないように見えるけど。

アンドリュー：船長、この船ーセニルへは？

マッシュズ：ん？ コラムの途中だな。ーアタリアまで三日ってところか。

そこで降りるってんなら、降ろしてやってもいいぜ。

アンドリュー：そうか、料金はー

マッシュズ：今日はケチのつきっぱなしだ。欲かいたら、ロクな目に合わねえ。ーツケとくよ。

アンドリュー：そうか、礼を言う。

マッシュズ：なに、見たとこ海兵のようだからな。古巣のよしみだよー

ケイオス：さ、船長。宇宙の放っばり出されないうちに、目的地に向かわなきゃ。

KOS-MOS[彼女]、その辺けっこうドライみたいだから。

マッシュズ：ああ〜、この仕事が終わって借金返したら、ケルティアまですっ飛んでいってー

スパイスシスターズの妖艶、かつエネルギッシュなライブを観ようという、俺の壮大な計画があ！

トニー：いやあ、ガイナンの旦那への返済はどだい無理っしょ。多すぎるもん。

しかし、まあたスパイスシスターズ！ 好きだねえ、船長も。

ハマー：船長おーわざわざケルティアくんだりまで行かなくても、

後で U.M.N. に接続して観ればいいじゃないっすか。

マッシュズ：馬っ鹿野郎、単に視覚野に送られただけの情報なんざあ、

眼[まなこ]に直接焼き付けられた現実の姿に比べりゃ、屁だ屁！ 要はリアリティーの問題なんだよ！

トニー：そんなのどっちだって、一緒っしょ。脳味噌ん中じゃ区別つかないんだし。

マッシュズ：うっせえー！ とっとと発進させろい！

トニー：へーい、了解了解。

モモ：じゃあ、シオンさんーモモが船内をご案内しますね。

シオン：ありがとう、助かるわ。

ケイオス：アレンさんはこっちへどうぞ。男性用の船室は、別にありますから。

ジギー：道中、よろしく頼む。

アレン：あ、はい、こちらこそ！

—

シオン：ねえ、モモちゃん。

モモ：はい？

シオン：あなた——百式レアリエンのプロトタイプなのよね。

モモ：はい、そうです。

シオン：そういえば——背中のマーキング、ミズラヒ研のものね。

じゃあ、ヨアキム・ミズラヒ博士が産み出した最初の百式観測器が、モモちゃんなの？

モモ：はい、いま量産されている百式は、みんなモモの妹です。

シオン：そう、それで——

モモ：どこかで、百式に会ったんですか？

シオン：うん、ちょっとね。——さっきまで乗り合わせてた軍艦に配備されてたの。

モモ：いいなあ。モモ、まだ妹たちに会ったことないんです。

シオン：——そう。

ねえ、モモちゃん。その百式と再会することができたら、モモちゃんにも紹介するね。

モモ：はい！ モモ、楽しみです！

シオン：（——きっと、生きてるよね。アイ

どこかでまた会える——そんな気がするもの）

—

シオン：あら、中佐は？

ジギー：ふむ、一度はここに落ち着いたのだが、そういえば見なくなったな——

シオン：そうですか——あの、ジギーさんはどうして、モモちゃんと一緒に、第二ミルチアへ？

モモ：U-TIC 機関に捕まっていたモモを、ジギーが助けてくれたんです。

シオン：U-TIC 機関って、あの武装組織の？ たしか、ミルチア紛争後に壊滅したはずじゃ——

ジギー：どうも、秘密裏に復活したらしい。申しわけないが、詳細は星団連邦政府の機密となっている。

アレン：じゃあ、その政府の任務で、モモちゃんを第二ミルチアまで送り届けるわけですか。

ジギー：————

シオン：アレンくん、機密だって聞いたばかりでしょ。

アレン：あ、はい、そうでした。

モモ：任務もあったけど、それだけじゃないんですよ。

ママがジギーに依頼してくれたんです。

——このくらい、いいですよ。

ジギー：ああ、かまわないだろう。

アレン：ママー—ですか？

ジギー：政府でも重要なポストにある方が、モモの保護者となっている。自分はその要請を受けたというわけだ。

すまんが——

シオン：これ以上は機密、ですね。

ジギー：そういうことだ。

シオン：了解です。